



シリーズ豊前市 SDGs とは？

“誰一人取り残さない持続可能な社会”を実現する世界共通目標である SDGs。全部で 17 個ある SDGs の目標を、地域の視点を取り入れ、そして一人一人ができる取組事例を取り入れて、毎月 1 つずつご紹介していく 2022 年 1 月から開始した連載です。地域の未来のために、私たちと私たちの大切な人が持続可能であるために。豊前で始める最初の第一歩。毎月 SDGs を一緒に学びながら、**自分にできることを一緒に始めていきましょう。**

目標 7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

すべての人が安心してエネルギーを手に入れられること  
環境に良いクリーンなエネルギーを増やしていくこと

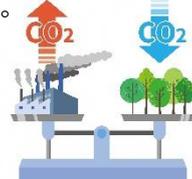
目標 7 が必要な理由は大きく 2 つあります。1 つ「安全でクリーンなエネルギーを使えないことが人の健康に大きな被害を起していること」、2 つ「地球温暖化の原因として地球の持続にとって深刻な問題になっていること」です。それぞれ具体的に掘り下げていきましょう。毎日の食事やお風呂、学校生活にも欠かせないのが電気やガスといったエネルギーですが世界ではまだ約 8 億人もの人が電気がない生活を送っています。こうした人たちは、石炭や木炭、糞や薪を燃やして料理や暖房に使っていて、こうした燃料を用いざるを得ない人たちは世界に 28 億人以上。煙で汚れた空気健康を損なうこともあります。こうした燃料の屋内使用によって亡くなっている人は年間 400 万人とされています。また、地球温暖化の最大の原因は二酸化炭素で、温室効果ガス全体の 76% を占めています。私たちが使っている電気は、これまで石炭や石油などの化石燃料を燃やして作っていましたが、化石燃料は燃えるときにたくさんの二酸化炭素を大気中に放出してしまいます。地球温暖化をこれ以上進めないために、二酸化炭素を出さない取組をしていくことが必要になっています。



豊前市の取組 | ゼロカーボンシティ宣言

「2050 年までに二酸化炭素実質排出量ゼロ」を目指し、市民、事業者とともに実現に向けて取組を進める」

資源の少ない日本は、世界第 5 位のエネルギー消費国でありながらエネルギー自給率はわずか 11.8%、これは先進国の中でも極きわめて低く、そしてエネルギー資源の約 9 割を海外から輸入する化石燃料に頼っているという状況があります。一方世界では、二酸化炭素を出さずに資源も枯渇しない未来のエネルギーとして、太陽光や風力、水力、バイオマス、地熱などの自然の力から生み出す再生可能エネルギーを積極的に導入しています。日本では、エネルギーを上手に使う工夫や二酸化炭素の排出量を減らす工夫、そしてカーボンニュートラル（二酸化炭素の放出と吸収が相殺されている状態）を目指す取組が重要です。豊前市では、豊かで美しい自然環境と住みよいまちを次世代に引き継ぐために「2050 年までに、二酸化炭素排出実質ゼロを目指す『ゼロカーボンシティ』の実現に向けて取組む」ことを表明しました。これは国内の公共団体として 738 番目の事例となります。これらについては市民や事業者の皆様にもご協力いただきながら取組をして参ります。お問合せは 豊前市生活環境課 環境対策係 ☎82-8018



SDGs の主人公はわたしたち

身近なところにある SDGs  
一人一人ができる取組事例



目標 7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」は「すべての人が手ごろな価格で近代的なエネルギーを使えること」「環境に良いクリーンな再生可能エネルギーを増やすこと」が目標です。今回ご紹介する取組以外にも、個人でできる取組はたくさんあります。まずは新聞や公共施設など周囲に目を向け、身近に自分ができる取組が紹介されていないか、そしてヒントが隠れていないか探し、できることから始めましょう。

- ＜わたしたちにもできること＞
- ① 日本や他の国のエネルギー状況に興味を持ち、未来のエネルギーについて考えてみる
  - ② 地球温暖化の最大の原因は二酸化炭素であり、二酸化炭素を出さない取組を考えてみる
  - ③ コンセントを抜く、電化製品の主電源をこまめに切るなど、日頃から節電を意識すること
  - ④ 公共交通機関をできるだけ使うことやアイドリングストップを心掛けること

株式会社ニコン日総プライム 水谷洋司(英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー)